

郷土をみどりに 48年植樹祭など開く



▲植樹祭で表彰を受けた人たち



▲植樹する沢田知事

四十八年植樹祭は、県、国土緑化推進委員会、県森林組合連合会、長洲町の共催で三月十日、長洲町大明神の有明臨海道路に関係者およそ四百人が参加して開かれました。

その中で沢田知事は「緑に囲まれた新しい工業都市づくりを進めたい」と挨拶。引続き臨海道路の歩道や中央分離帯などにナンキンハゼ、シャリンバイ、キョウチクトウ、ムクゲなどおよそ五百本が参加者の手によって植えられました。

なお、植樹祭に先立ち、同町体育館で学校造林コンクール、愛林ポスター、樹芸林業コンクールなどの入賞者の表彰式も行なわれました。



▶賑わった苗木の無料配布

熊本営林局、県、県緑化委員会では、みどりの週間にちなんで三月二日、熊本市の花畑公園で苗木の無料配布をしました。

会場では、みどりに対する関心の高まりを反映して長蛇の列ができ、準備したツツジ二千本、クスノキ千本、シャリンバイ千本も一時間たらずで品切れという盛況ぶりでした。

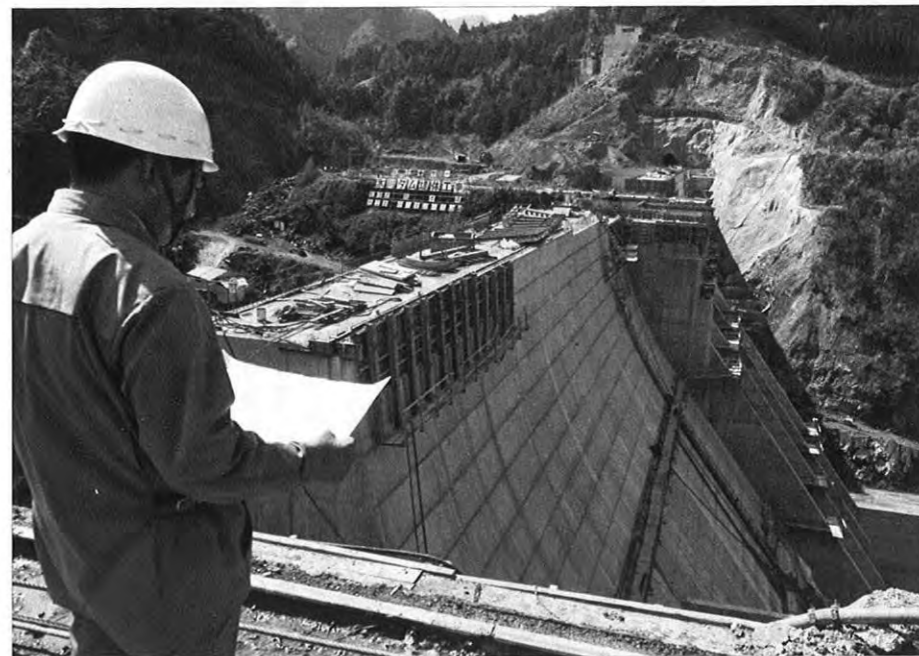
仕上げを急ぐ 氷川ダム



八代郡泉村下岳に建設中の氷川ダムが、六月下旬完成をめざして最後の仕上げを急いでいます。

このダムは毎年繰返される洪水を調節し、泉村、東陽村、竜北村、宮原町、鏡町、千丁村の六ヶ町村に対して畑かん(270ヘクタール)、水田補給(1,500ヘクタール)、上水道給水(41,000人分)などいろいろな役目を果たす多目的ダムです。

ダムの大きさは堤長192m、堤高57m、総貯水量 630万トで、型式は重力式コンクリートダムです。総事業費は27億円。



◀ダム本体はほぼ完成